

## 【対策】78 大学・高専の練習船を活用した災害支援対策

対策概要：国立大学・高等専門学校等の練習船について、外部への電力供給や清水の製造・供給機能、支援物資の運搬機能等の災害支援機能を強化した代船を建造し、災害支援に必要な体制の充実を図る。

府省庁名：文部科学省

### 【事例】北海道大学「うしお丸」代船建造事業

- 実施主体：国立大学法人北海道大学
- 実施場所：北海道函館市
- 事業概要：平成23年の東日本大震災等では、北海道南西部を中心として陸上からの物資輸送が途絶した。また平成30年の北海道胆振東部地震では北海道全体で大規模な停電が生じた。このような状況において、物資輸送や電力供給など、適切な災害支援を実施するための対策を行う必要があったため、R3.12(起工)からR4.10(竣工)にかけて北海道大学の「うしお丸」の代船を建造した。その際、教育・研究機能の強化とともに、災害支援機能(支援物資搭載スペース・揚降設備の整備、清水の供給と緊急時の衛生設備の提供、通信手段の提供等)も充実させた。
- 事業費：約29.9億円  
(うち5か年加速化対策(加速化・深化分)14.9億円)
- 効果：練習船「うしお丸」の代船建造時に災害支援機能を盛り込み、海上から食料・飲料水・電力・通信インフラ入浴機会等を供給する体制を構築した。また、空中・水中ドローンを用いた遭難者捜索・被害状況提供も可能とした。



荒天が多く、寒冷な北海道周辺でも活動できる「練習船うしお丸(262トン)」



多くの災害救援物資を搭載できる広い甲板と揚降設備。陸上に100V電源を90日間供給可能



飲料水2万リットルと、男女別の衛生区画を提供可能



被害状況と捜索活動に利用できる空中ドローン



陸上が停電しても稼働するau基地局と船内定額ネット回線(NetBreeze)



無停電docomo基地局で本船周辺に電波を提供

被害状況と捜索活動に利用できる水中ドローン